

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

主 論 文 の 要 旨

論文題目	Synchronic and Diachronic Aspects of Adnominal Past Participles in English (英語における名詞修飾過去分詞の共時的通時的諸相)
氏 名	其格其

論 文 内 容 の 要 旨

本論文では英語における名詞修飾過去分詞に対して共時的通時的の研究を行いました。論文内容の要旨は以下の通りです。

1、前置修飾分詞の共時的部分について：

分詞の分類、解釈と構造を含む三点に関する先行研究を徹底的にまとめ、その問題点を指摘し、未解決の問題を解決しました。

(1) 分詞のタイプ分けに関しては、‘形容詞的 vs 動詞的’、‘名詞派生 vs 動詞派生’、‘他動詞派生 vs 非対格派生 vs 非能格派生’、‘状态的 vs 結果状态的 vs イベント的’を含む4種類のタイプ分けの内、最も重要である‘状态的 vs 結果状态的 vs イベント的’解釈を決定する基準が意味論の観点から新たに提案される。

(2) 分詞を派生する動詞が持つイベント性の種類が、その決定基準となる；時間的イベント性を持つ場合はイベント分詞となり、空間的イベント性を持つ場合は状態分詞となる；結果状態分詞は時間的イベント性を持つので、イベント分詞に再分類され、その状態の意味は完了の結果状態の意味、または語彙的結果状態の意味であるとされる。三種類の分詞はいずれの場合でも何らかのイベント性を持つため、動詞性を持つことが明らかになる。

(3) その基準に基づき、全ての分詞が同じ基本構造を持っていることが示される。具体的には、動詞範疇であるvPの部分はいずれの場合でも、その構造に含まれ、異なる解釈はそれ以上の機能範疇によることが示される。

2、後置修飾分詞の共時的部分について：

その内部構造とラベリングに関わる問題を中心に扱いました。

(1) 後置修飾分詞は、修飾される名詞と叙述関係を成し、小節構造を持つと主張され、それ支持する経験的証拠が提示される。その小節構造は叙述範疇 PredP であると提案される。

(2) その一方で、後置修飾分詞と名詞との修飾関係が PredP の中（具体的には PredP の指定部）から、その名詞が表層位置に移動することで生じ、関係節化が成り立つ；その関係節化におけるラベリングには範疇素性が重要な役割を果たすことが指摘される。具体的には、NP の範疇素性 N が限定詞 D の範疇素性 N に選択され活性的になることで、NP と PredP からなる句のラベル NP になると主張される。

3、前置修飾分詞の通時的部分について：

分詞に相的変化が起こり、それによりいくつかの個別の変化が生じたことを報告し、その具体的原因を明らかにしました。

(1) 古英語の前置分詞は結果状態の解釈のみを持っていたことの三つの理由が挙げられる；それぞれは、分詞がアスペクト接頭辞を持っていたこと、分詞を修飾する副詞の種類が制限されていたことと形容詞の屈折の分部である。

(2) 中英語初期にアスペクト接頭辞が消失し、それにより、分詞が表す結果状態性が内相から外相に移り、分詞が語彙的にだけでなく文法的にも派生されるようになったと主張される。

(3) 従って、完了の意味を伴う様々分詞が発達されたことが示される。その中で、経験的完了の意味を持つイベント分詞、非対格派生分詞、非能格派生分詞などが含まれる；非対格派生分詞と非能格派生分詞の近代英語時期における出現が個別の要因により直接引き起こされたが、結局上記の相的変化の帰結であると主張される。

4、後置修飾分詞の通時的部分について：

分詞を含んだ名詞句内の語順、または分詞句内の語順に関する変化が起きたことを報告し、その原因を説明しました。

(1) 初期英語において、分離分詞句が利用可能だったが、近代英語時期において不可能になった；分離分詞句は、分詞が名詞に

後続する位置に基底生成され、作用域を取るために名詞の前へ移動することで派生し、その消失した原因は、英語史において分離句に意味的制限が課せられるようになったことに帰すと主張する。

(2) 初期英語において、分詞句において前置詞句が分詞を超えて「前置詞句-動詞(分詞)」という語順が得られ、その語順が18世紀まで可能だったのであり、定型節においては、「前置詞句-動詞」という語順が既に14世紀に消失したことと対照となる；この対照性が非定型節(後置修飾分詞句以外分詞節なども含まれる)と定型節の間で見られる原因は、(非)定型性と循環的線形化との相互作用にあると主張される。

(3) 非定型節において「前置詞句-動詞(分詞)」という語順が18世紀以降不可能になったことは、英語史において軽い要素が文末を占めるという情報構造に関する一定の要求がなくなったことによると主張される。